

2014 年度秋季大会実施報告

大会・企画委員会, LOC

秋季大会実施報告 (大会・企画委員会)

2014 年度秋季大会は、新潟市の朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンターにおいて、11 月 24 日 (月)～26 日 (水) に開催され、754 名 (会員 623 名、非会員等 131 名) の参加がありました。プログラム確定後の講演発表数は口頭 250 件 (うち招待講演 5 件)、ポスター 192 件 (うち招待講演 1 件) の合計 442 件で、このうち口頭発表 3 件がキャンセルされました。そのほかに、若手学術奨励賞受賞者 3 名による記念講演がありました。

特別セッションは募集しましたが応募はなく、大会・企画委員会が特別セッション「新潟地震 50 周年・新潟県中越地震 10 周年：これからの地震研究と災害軽減」を企画しました。レギュラーセッションは昨年度と同じ 20 セッションを設けました。このうち一部 (「地殻変動・GPS・重力」と「地震予知・予測」) は名称を昨年度のものから変更しました。

昨年度同様、講演申し込み、予稿原稿アップロード、事前参加登録と参加登録料及び投稿料の支払いは、ウェブサイト上で受け付けました。事前参加登録済みかつ年会費納入済みの会員には、予稿集と共に名札と領収書を事前送付し、当日は大会受付を通らずに入場できるようにしました。事前参加登録数 502 名のうち年会費納入済みの会員は 376 名であったことから、年会費を早期に納める会員が多ければ、初日の朝の受付の混雑をさらに緩和できたと考えられます。今後とも事前参加登録にご協力願います。

受け付けた講演申し込み 442 件のなかには、予稿原稿の書式が守られていないものや、手続き上の不備などがありましたが、いずれも委員会からの指摘に対して著者から予稿等が適切に修正されました。受け付けたすべての講演申し込みが採択されました。

今年度は、大会 1 日目の午後に、若手学術奨励賞受賞者 3 名による記念講演と特別セッションの招待講演を設けました。大会 3 日目の昼休みには、理事

会で議論されている案件についての説明会を理事会主催で開催しました。大会 1 日目の午前と大会 2,3 日目は 4 会場バラレドで口頭発表のセッションを、大会初日と 2 日目の夕方にポスター発表のコアタイムを設けました。なお、口頭発表の時間は 1 件あたり 15 分 (講演 12 分、質疑 3 分) とし、ポスター発表はコアタイムのない日も含めて大会期間 3 日間とも掲示し続けることを可能としました。また、大会期間中に講演予稿集の電子化の要望等に関するアンケートを実施しました。回答数 166 のうち、講演予稿集の電子化について「強く要望する」または「あればいいと思う」という回答が 8 割以上ありました。

今年度も、学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」の審査をしました。口頭発表とポスター発表のどちらも対象です。本年度の審査員には理事、代議員、大会・企画委員会から 23 名が選出され、61 名 63 件の発表を審査しました。選考結果と受賞者については、本ニュースレター 22～24 ページに発表されています。

秋季大会の準備、運営面では、東京大学地震研究所と新潟在住の地震学会員からなる LOC の皆様に全面的にお世話になりました。LOC の皆様の献身的なご尽力により、新潟大会が円滑に運営されたことに、大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。大会の経費については、新潟県ならびに新潟市のコンベンション開催費補助金を申請しています。

さて、来年度の秋季大会は神戸国際会議場において、2015 年 10 月 26 日 (月)～28 日 (水) の日程で開催される予定です。LOC は神戸大学にお引き受けいただいています。今年度に引き続き、会員の皆様の積極的な投稿・参加を期待しております。

最後になりましたが、各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様のご協力に感謝申し上げます。

LOCからの報告 (LOC)

2014年度秋季大会(新潟大会)は、東京大学地震研究所と新潟在住の地震学会員がLOCを務めさせていただきました。大会・企画委員会からは、2014年が新潟地震50周年、中越地震10周年にあたることから新潟での開催を検討しており、東京大学地震研究所でLOCを引き受けてくれないか、との要請がありました。新潟での開催にあたっては、開催地から離れた東京大学地震研究所だけで運営するのは無理がありますので、新潟在住の地震学会員の方々にも声をかけてLOCを組織するに至りました。

大会会場は、講演会場やポスター会場が分散しないで、1箇所で開催できる施設を新潟市やその周辺で探しました。朱鷺メッセは、施設の大きさが秋季大会を開催するのに十分でしたが、9月から11月のあいだで、一般公開セミナーも含めた4日間を連続で使用できる期間は11月23日～26日のみでした。例年より約1ヶ月遅い開催となってしまいますが、他の施設では分散した会場になることが避けられないため、朱鷺メッセを大会会場としました。講演会場やポスター・団体展示会場をコンパクトにまとめることができましたので、各会場間の移動も短時間でいけたと思います。ポスター会場には、大きさに余裕がある部屋を割り当てることで、コアタイムでない日も含めて3日間の掲示が可能になりました。コアタイムが同じ日に割り当てられているポスターをなるべく向かい合わないよう掲示箇所を指定することで、余裕をもってご覧いただけたと思います。

最後になりましたが、新潟県、新潟市、朱鷺メッセ、会場設営の補助をお願いした地元の業者をはじめとする多くの方々のご協力で、大きなトラブルもなく秋季大会および関連イベントを終了することができました。大会に参加して下さった皆様、ご協力下さった方々に深く感謝申し上げます。

一般公開セミナー報告 (LOC)

秋季大会に先立つ11月23日(日)には、朱鷺メッセ(新潟市)において、社会人向けの「一般公開セ

ミナー」と小中学生向けの「親と子の防災教室」を開催しました。一般公開セミナーでは、過去の事象を探る地質学・歴史学および地震学の専門家3名を招いて、新潟周辺の地震に関する話題を提供しました。1964年に発生した新潟地震は、都市で地震が起きた際の様々な被害があらわになったため、その後の地震防災に大きな影響を与えた地震であり、地震発生から50年経過した今、あらためてその被害がもたらしたものを見つめ直す講演となりました。一方、親と子の防災教室では、地震やその被害に関する話題を通して、なぜ地震を学ぶ必要があるのか、地震による危険はどんな所にあるのか、身を守るためにはどんなことを知っておく必要があるのか等を伝えました。その後、簡単な材料を用いて「揺らすと光る地震計」を自分たちで作り、自分で地面を叩いた揺れと本当の地震の揺れとの違いから、地震エネルギーの強さを実感できたのではと思います。なお、この企画は、JSPS 科研費(課題番号:260015)の助成を受けて行われました。新潟県と新潟市からも後援をいただきました。

大会プログラムの修正 (大会・企画委員会)

○発表のキャンセル

- A32-13 複数のアスペリティを持つゲル同士のすべり素過程
山口哲生・姫野豊(九大工)
- C31-10 南海トラフ巨大地震の「安政型」と「宝永型」について
石橋克彦(神戸大名誉教授)
- C32-08 日本海溝海底地震津波観測網(S-net)の設置～三陸沖北部ルート～
植平賢司・金沢敏彦・望月将志・藤本博己・野口真一・眞保 敬・功刀 卓・汐見勝彦・青井 真・関口涉次・松本拓己・岡田義光(防災科研)・篠原雅尚・山田知朗(東大地震研)

○発表者の変更

- B31-06 白鳳丸KH-13-5次航海による2011年東北沖地震震源域北限周辺における人工震源構造調査(序報)
望月公廣・石原 健・山口知朗・山下裕亮

篠原雅尚（東大地震研）・東 龍介・
日野亮太（東北大災害研）・
佐藤利典（千葉大理）・八木良寛（鹿大理）・
白鳳丸 KH-13-5 次航海乗船研究者
発表者：篠原雅尚 に変更